

楽しい絵手紙



八女文化会館の作品展を見に行つて初めて絵手紙に出会いました。私もぜひ描きたいと思い、はつらつの絵手紙教室に入会しました。ご指導は大坪先生です。野菜や果物など自分なりに描いてもなかなかうまく表現できません。ところが先生の魔法の筆が入ると絵が生き生きとして、味わいのあるものになります。その時は、本当に嬉しくて感動します。教室で皆さんの絵を見るのも好きです。和気あいあいとこれからは勉強を続けていきたいと思っています。



八女市馬場 栗原 廣子

農業クラブ県大会報告

～最優秀7 九州大会・全国大会に出場します～ 八女農業高等学校

県内の農業を学ぶ高校生が日頃の学習成果を競う、福岡県学校農業クラブ連盟年次大会が5月から6月にかけて行われ、本校生徒は、昨年に劣らぬ優秀な成績を収めることができました。結果は以下の通りです。

- プロジェクト発表の部：「環境」 最優秀（九州大会出場） システム園芸科3年 藤木 文太 他8名の研究チーム
●意見発表の部：「環境」 最優秀（九州大会出場） システム園芸科3年 石橋 晴美
●意見発表の部：「文化・生活」 最優秀（九州大会出場） 生物利用科3年 野村 歩未
●農業鑑定競技 最優秀（全国大会出場） 4名
「農業部門」 生産技術科3年 白谷 壮平
「園芸部門」 システム園芸科3年 古賀 和輝
「畜産部門」 生物利用科2年 岩永 竜弥
「生活科学部門」 生活科学科3年 大石 可奈

このほかにも、農業鑑定競技9名、農業機械技術検定競技1名が優秀、スローガンの部1名が特選を受賞しました。九州大会は8月に熊本県山鹿市で、全国大会は10月に群馬県で開催されます。入賞に向けてさらに頑張りますので、応援よろしくをお願いします。



8月の校内販売所(みらい館)の開館日 4日(火)、7日(金)、11日(火)、18日(火)、21日(金)、25日(火)、28日(金) 販売時間は、10時30分～15時30分です。多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。

子供たちが大好きだった、まどみちおさんの詩、「てんぷらぷりぷり」この詩は、まだまだ暑い八月の終わりに、読む者に小さな秋を感じさせてくれた。「ほらかあさんがことしもまた てんぷらぷりぷり あげだした」から始まり、あげだしたから始まるこの詩には、「ツクツクホウシがけさないたら もうすぐぷりぷり あげだした」と、ツクツクホウシが登場する。「秋のにおいの シソのみの 小さな かわいいつぶつぶの」と、詠う詩は、目には清かに見えない秋の気配を五感で捉えよ、と、子供たちに教えてくれた。鳴く時を忘れた蝉。それは、物言わぬ蝉たちが小さな体を懸命に震わせ訴えている、人へのメッセージだ。「地球環境を考えよ」と。 夏生

こんにちは。 筑後警察署です。



ニセ電話気づかせ隊参加募集!

福岡県では、ニセ電話詐欺の被害が急増し、本年6月末現在の被害額が約12億円に達するなど極めて深刻な状況にあります。このため、福岡県では、知事を推進委員長とする「ニセ電話気づかせ隊推進委員会」を発足し、社会全体でニセ電話詐欺撲滅に向けた県民運動を推進することになりました。そこで、筑後警察署及び八女警察署では、管内の企業・団体の方々に「ニセ電話気づかせ隊」への参加をお願いしています。「ニセ電話気づかせ隊」の任務は、最新のニセ電話詐欺に関する情報を「ふっけい安心メール」で受信していただき、●ニセ電話により騙されている高齢者の方などへの声掛け●ニセ電話詐欺の被害防止に係る広報啓発活動を行うというものです。企業・団体の皆様方の積極的な参加・登録をお願いします。

詳しくは、福岡県警察のホームページをご確認いただくか、各警察署までお電話ください。

- 筑後警察署 生活安全課 0942-52-0110(代表)
○八女警察署 生活安全課 0943-22-5110(代表)



仁田原 寿一



夏は冷茶が うまくて健康的!

平成27年7月1日の「ためしてガッテン」(NHK番組)で「夏こそ! スーパー緑茶 新カテキンで免疫力復活」という番組がありました。この中で、(独)農研機構 野菜茶葉研究所の物部真奈美主任研究員が「緑茶を水出しにする」とエピガロカテキンがたくさん含まれ、おいしくて、しかも感染症の予防効果があると言われています。健康成分として知られているカテキン類は一般的に緑茶に10%

15%含まれ、そのうちエピガロカテキンは、4%程度含まれていると言われています。番組では、4種類のお茶の出し方も紹介されていました。一つ目は、煎茶10gを氷水100ml(4度以下の水)で5分出す方法です。二つ目は、煎茶10gをスーパー等で購入できる「だし用紙パック」に詰め、1ℓの氷水に入れて30分経過後軽く振って飲むというものでした。 また、煎茶10gを40mlの氷水で淹れると玉露のような深い味わいが楽しめるというものもありました。さらに、水出しで使用した茶葉は捨てないで、高温のお湯で頂くと全部の健康成分が頂けるというものでした。 私もこれらを実践し、健康的な夏を過ごそうと思っています。(福岡県農林総合試験場八女分場長)

クラッシー文芸

- 八女紫苑句会
中川原篤子
松延みさと
松崎 伸子
井上トシ子
牛島 景子
堤 多鶴子
洞窟に在す女神や苔の花
アマリリス東西南北気をくぼり
香聞き舌に転ばす新茶かな
汚れなき沙羅の花掃く尼が庵
古民家にうねる太梁梅雨湿り
■黒木町くすの実俳句会
黒揚羽密偵のごと過ぎりけり
四方山の抱く湿原風薫る
義父の忌や木斛の花ひっそりと
おかんと初めてくれしカーネーション
藤祭賑ひ去りて一人居る
車道にも現れ出でし袋角
野あざみや一時帰宅の友見舞ふ
松尾満留美
吉泉 守峰
東野 容子

呟き

ツクツクホウシは 訴えている

夏の風物詩に蝉の鳴き声がある。ミンミンゼミ、アラゼミ、クマゼミはその熱い鳴き声で人を暑くする。炎天下にそよとも吹かぬ風。昼下がり、蝉の声をBGMに、母と並んで昼寝をした幼い頃が懐かしい。ここ数年、近くの雑木林から聞こえる蝉の声に、年々「なんか変?」と、思うことがある。夏の終わりに秋を運んでくる蝸やツクツクホウシの音が、ミンミンゼミやアラゼミに混じって早々と聞こえてくるからだ。そう言えば、何時の頃からか、春の近いことを知らせる三寒四温なる気温の変化も、どこへ行行ったことやら。季節の移り目の微妙な変化が、私たちの周りから次々に消えていくことは残念であり、無気味でもある。 子供たちが大好きだった、まどみちおさんの詩、「てんぷらぷりぷり」この詩は、まだまだ暑い八月の終わりに、読む者に小さな秋を感じさせてくれた。「ほらかあさんがことしもまた てんぷらぷりぷり あげだした」から始まり、あげだしたから始まるこの詩には、「ツクツクホウシがけさないたら もうすぐぷりぷり あげだした」と、ツクツクホウシが登場する。「秋のにおいの シソのみの 小さな かわいいつぶつぶの」と、詠う詩は、目には清かに見えない秋の気配を五感で捉えよ、と、子供たちに教えてくれた。鳴く時を忘れた蝉。それは、物言わぬ蝉たちが小さな体を懸命に震わせ訴えている、人へのメッセージだ。「地球環境を考えよ」と。 夏生